

2017年度「わいわい文庫」利用アンケートの結果と考察

専修大学文学部
教授 野口 武悟

はじめに

公益財団法人伊藤忠記念財団（以下、伊藤忠記念財団）では、2011年度からマルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の製作と寄贈を行っています。寄贈先は、特別支援教育を行っている全国の学校（特別支援学校や、特別支援学級・通級指導教室を設置する小・中学校など）の学校図書館、障害者サービスを行っている全国の公共図書館、病院や障害者施設などです。

寄贈した「わいわい文庫」の利用状況と意見を把握し、よりニーズに適った作品の製作につなげることをねらいとして、伊藤忠記念財団では、毎年、寄贈先に対してアンケートを実施しています。

2017年度のアンケートは、寄贈先1,197件のうち1,071件から回答が寄せられました（回収率89.5%：2018年1月24日現在）。本稿では、この2017年度のアンケートのおもだった結果を紹介するとともに、若干の考察を述べたいと思います。

おもなアンケート結果とその考察

(1) 「わいわい文庫」の閲覧・視聴機器について（複数回答：回答合計1,538）

回答	学校	図書館	その他	合計
パソコン	567	216	102	885
タブレット端末	167	33	61	261
大型テレビ	172	5	12	189
プレクストーク	23	59	2	84
プロジェクター	59	3	11	73
電子黒板	45	0	1	46

「わいわい文庫」を閲覧・視聴している機器（デバイス）としては、合計で見ると「パソコン」が最も多く、次いで「タブレット端末」「大型テレビ」となっています。機関別に確認しますと、特徴が見えてきます。学校では「パソコン」に次いで「大型テレビ」での利用が多くなっています。これは、授業時に教材として活用しているためと考えられます。また、図書館では「パソコン」に次いで

「プレクストーク」での利用が多くなっています。「プレクストーク」はDAISYの専用機器で、普段から音声DAISYを利用している人が「わいわい文庫」の作品も音声で利用しているのではないかと思います。

(2) 「わいわい文庫」の利用形態（複数回答：回答合計1,436）

回答	学校	図書館	その他	合計
授業で利用	391	0	13	404
個人(家庭)への貸出し	66	137	31	234
図書館内での閲覧	106	115	7	228
休み時間などで自由利用	171	0	17	188
団体への貸出し	3	61	10	74
活用方法を検討中	203	75	30	308

「わいわい文庫」の利用形態は、学校では「授業で利用」が、図書館では「個人(家庭)への貸出し」が、それぞれ最多となっています。このことから、前項で述べた閲覧・視聴機器の傾向は、「わいわい文庫」の利用形態と深く関わっていることが分かります。

しかし、合計で見ますと「活用方法を検討中」が2番目に多くなっていました。2014年度にも同様の項目で調査をしていますが、このときの結果でも「活用方法を検討中」が2番目に多くなっていました(『わいわい文庫活用術③』参照)。伊藤忠記念財団では、本書『わいわい文庫活用術』の発行や各地での読書バリアフリー研究会の開催などを通して活用方法についての情報提供をすでに行っているところですが、さらなる情報提供が必要といえるでしょう。

(3) 「わいわい文庫」 Ver.3のDVD収納について

回答	学校	図書館	その他	合計
再生できた	570	218	103	891
問題があった	14	8	3	25

これまで「わいわい文庫」の作品はCD (Compact Disc) に収納しての頒布でした。しかし、CDでは記録できるデータ容量が小さいため、長時間の作品を複数収納することに難がありました。そこで、2017年度の「わいわい文庫」 Ver.3では、新

たな試みとして、記録できるデータ容量が大きいDVDに収納しました。

アンケート結果では、「プレクストーク」で利用する人には不便との意見も記述にはありましたが、全体として「問題があった」という回答は3%程度でした。

(4) 『精霊の守り人』の人工合成音声について

回答	学校	図書館	その他	合計
特に問題は感じない	413	151	67	631
違和感がある	134	68	32	234

こちらも新たな試みとして、7時間に及ぶ長編の『精霊の守り人』(Ver.3収納)を人工合成音声(TTS)で製作しています。

「特に問題は感じない」が7割となっています。筆者も閲覧・視聴しましたが、特に問題は感じませんでした。しかし、「違和感がある」という回答も3割ありました。記述を見ると、「イントネーション・アクセント」「抑揚・間」への違和感との回答が比較的多いようです。違和感の要因は、現状の人工合成音声技術によるところもありますが、編集上の工夫でさらに改良できることもありそうです。

製作の負担をおさえて良質の作品を数多く届けるためには、前項で述べたDVDへの収納や人工合成音声の活用は今後も必要であると筆者は考えます。伊藤忠記念財団のこうした新たな試みを評価したいと思います。

(5) 「わいわい文庫」添付資料のなかで利用促進に役立つものについて (複数回答：回答合計2,585)

回答	学校	図書館	その他	合計
わいわい文庫活用術	457	173	86	716
作品一覧	394	135	73	602
わいわい文庫の基本操作	357	151	64	572
書影(本の表紙)ポスター	268	94	36	398
わいわい文庫Area Map	160	94	26	280
その他	11	5	1	17

「わいわい文庫」に添付している資料のなかで利用促進に役立つと考えているものは、合計で見ると「わいわい文庫活用術」が最も多く、次いで「作品一覧」「わいわい文庫の基本操作」でした。

(6) 「わいわい文庫」の保管場所について

回答	学校	図書館	その他	合計
学校図書館	268	2	1	271
職員室	159	6	25	190
担当教諭が保管	165	2	10	177
その他の場所の資料庫、収納	43	47	31	121
開架書架に保管	18	71	8	97
閉架書架に保管	12	80	6	98

「わいわい文庫」の保管場所としては、学校では「学校図書館」が最も多く、次いで「職員室」と「担当教諭が保管」がほぼ同数となっています。「職員室」や「担当教諭が保管」ではなく、「学校図書館」で全教職員、児童生徒が活用できるようにしてほしいと思います。詳しくは後述しますが、文部科学省の定めた「学校図書館ガイドライン」でもマルチメディアDAISY図書は図書館資料の1つに位置づけられています。

図書館では、「閉架書架に保管」が最も多く、次いで「開架書架に保管」「その他の場所の資料庫」となっています。2014年度にも同様の項目で調査をしていますが、このときの結果よりも「閉架書架に保管」と「開架書架に保管」の差が小さくなってきました。良い傾向だと思えます。必要とする多くの人にマルチメディアDAISY図書の存在を知ってもらい、利用してもらうためには、閉架よりも開架です。このことを意識した対応が図書館にもっと広がってほしいと思います。

(7) 「わいわい文庫Area Map」について

回答	学校	図書館	その他	合計
参考になる	460	170	73	703
あまり参考にならない	21	3	8	32

「わいわい文庫Area Map」も、2017年度からの新たな試みです。これまでの「わいわい文庫」の全348作品をジャンル別に把握できるもので、添付資料の1つとして頒布されました。

「参考になる」との回答が約96%でした。筆者も便利だと感じました。

(8) 自由記述から

今回のアンケートでも、たくさんの意見や要望が記述で寄せられています。「わいわい文庫」に対する寄贈先の担当者の高い関心と、今後への期待を示すものといえます。記述内容の半数以上は活用しての感想などです。また、これから活用していきたいという記述も多く見られました。

一方で、要望もたくさん寄せられています。大きくは、①収納作品についての要望（小学校中学年向けの作品がほしい、ライトノベル系の作品がほしい、手話付きの作品がほしいなど）、②システムについての要望（アップルのコンピュータでも利用できるとよい、iPad用のアプリケーションが無料だとよいなど）に分けられます。①については、伊藤忠記念財団として要望内容を精査し、可能な範囲で取組みを進めてほしいと思います。また、②については、「わいわい文庫」そのものへの要望とは必ずしも言えませんが、「わいわい文庫」の利用に直結することですので、伊藤忠記念財団としても可能な範囲で関係方面へ働きかけてほしいと思います。

おわりに

2018年度から、高等学校においても通級指導が正式にスタートします。マルチメディアDAISY図書の必要性は高等学校においても高まることは間違いありません。

また、文部科学省は、「学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方」を示した「学校図書館ガイドライン」を2016年11月に定めました。このガイドラインのなかには、「発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実するよう努めることが望ましい。例えば、点字図書、音声図書、拡大文字図書、LLブック、マルチメディアDAISY図書、外国語による図書、読書補助具、拡大読書器、電子図書等の整備も有効である」という記述があります。

このように、マルチメディアDAISY図書は学校教育において不可欠な存在となっています（もちろん、学校教育だけでなく、図書館や医療、福祉の現場においても同様です）。ここには、伊藤忠記念財団のこれまでの「わいわい文庫」事業の実績が大きく寄与していることは言うまでもありません。しかし、まだまだマルチメディアDAISY図書は足りません。それが上述の自由記述に見られる要望となって表れています。読書の喜びをさらに多くの人たちに届けるために、伊藤忠記念財団には、これからも、これまで以上に「わいわい文庫」事業を発展させてほしいと願っています。